

## 出題の意図

### 論述試験（養護教育）

- 1) 熱中症の発生機序について、解剖生理学等の基礎的な知識の有無を問う。
- 2) 熱中症予防の取り組みを学校全体で進めるには、養護教諭が中心となり、保護者、教職員、児童・生徒がそれぞれの役割を果たすことが重要である。以下にその具体策を述べる。
  1. 養護教諭が学校保健活動の中核的役割を果たすことで、校内体制を構築する。
  2. 教職員一人ひとりが熱中症のリスクを正しく理解し、適切な対応ができるように、定期的な研修を実施する。
  3. 児童・生徒への保健教育により熱中症予防についての知識理解や対応力を身に付ける。
  4. 保護者と連動して、規則正しい生活習慣の確立に取り組む。これらの取り組みを組織的に進めるためには、学校保健委員会等で学校医に助言を求めたりすることも重要である。熱中症予防に対して養護教諭の専門性を活かし、学校内外の関係者と協同し学校全体で取り組むことができるよう努める。

- ①上記1～4.のような方策を、2つの柱を立てて、記述している。
- ②学校保健の構造領域（保健教育・保健管理・組織活動）を踏まえて、記述している。
- ③養護教諭の職務の特質を理解して記述している。（中核的役割・コーディネーターの役割など）
- ④チーム学校として取り組む記述をしている。（役割分担・計画的・組織的・経営的・研修・連携）
- ⑤ICTの活用等についても触れられている。

#### 出典

令和3年5月 環境省・文部科学省；学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き